

アセットマネジメント事業

Asset Management Business

FinTech等成長が見込まれる
分野への投資拡大に加え、
資産運用力の強化にも注力



主要企業

中間持株会社：SBIキャピタルマネジメント

SBIインベストメント

SBI VEN CAPITAL PTE. LTD.

SBI Investment KOREA Co., Ltd.

SBI貯蓄銀行

中間持株会社：SBIグローバルアセットマネジメント

モーニングスター

SBIアセットマネジメント

SBIボンド・インベストメント・マネジメント

重点施策

▶ ベンチャーキャピタル事業

- SBIインベストメントはFinTechファンドを組成し、FinTech等の新技術分野への投資を拡大
- 地域金融機関へのFinTech導入を支援することで企業価値向上を図る新ファンドの組成を予定
- SBIグループのグローバルネットワークを活用し、投資先FinTech企業の海外展開等を支援

▶ 資産運用サービス事業

- 当社グループの資産運用体制の強化に向けてグループ内を再編し、中間持株会社としてSBIグローバルアセットマネジメントを新設
- 資産運用会社ピムコ社とSBIボンド・インベストメント・マネジメントを設立し、債券ファンド運用を開始
- 国内外の資産運用会社との提携を通じたグローバル・アセット・アロケーションや、日本と海外の金利差を利用したアービトラージを推進
- 世界経済の不透明感が強まる中、安全資産である金のリアルタイム取引を提供予定

▶ SBI貯蓄銀行

- 韓国のSBI貯蓄銀行はリテール分野を中心に正常債権を着実に積み上げ
- 今後はさらに延滞率の改善を進めるとともに不良債権を一掃し、より一層収益力を強化

アセットマネジメント事業における 主な事業分野別の通期業績 (IFRS)

プライベート・エクイティ投資に係るアセットマネジメント事業
SBIインベストメント及び傘下のファンド等

(億円)

	2015年3月期	2016年3月期
収益	△1	188
税引前利益	△74	117

海外金融サービス事業
SBI貯蓄銀行等

(億円)

	2015年3月期	2016年3月期
収益	417	432
税引前利益	143	46

資産運用サービス事業
モーニングスター等

(億円)

	2015年3月期	2016年3月期
収益	36	41
税引前利益	12	14

ベンチャー投資を国内外で推進するとともに、
高い育成力で投資先企業のバリューアップを実現

川島 克哉

SBIインベストメント(株)
代表取締役執行役員社長



グループ運用資産の状況(2016年3月末現在)

プライベート・エクイティ等

2,663 億円

(現預金及び未払込額830億円を含む ※3)

(億円)

業種別		地域別	
IT・インターネット	262	日本	739
バイオ・ヘルス・医療	568	中国	223
サービス	90	韓国	267
素材・化学関連	25	台湾	16
環境・エネルギー関連	198	東南アジア	58
小売・外食	135	インド	52
建設・不動産	21	米国	439
機械・自動車	45	その他	38
金融	372		
その他	114		
合計	1,833	合計	1,833

投資信託等

2,590 億円※4

(億円)

投資信託	1,806
投資顧問	744
投資法人	40

※1 2016年3月末における為替レートを適用

※2 億円未満は四捨五入

※3 運用ファンドで保有する現預金のほか、出資約束金のうち今後のキャピタルコールにより出資者から払込を受けることが可能な金額(出資約束未払込額)を含む。

※4 SBIアセットマネジメントが運用指図を行っているファンドにおいて、モーニングスター・アセット・マネジメントが投資助言を行っている場合は、投資信託と投資顧問のそれぞれに計上しており、重複額が266億円ある。

国内外で活発にベンチャー投資を継続

SBIインベストメントは、SBIグループのアセットマネジメント事業における中核的な企業であり、「新産業クリエイター」として、21世紀の中核的産業の創造及び育成を担うリーディングカンパニーを目指すという経営理念の下、ベンチャーキャピタルファンドの運用・管理を行っています。SBIグループは1999年の創業以来、21世紀の中核的産業と位置付けるIT・バイオ分野を中心にベンチャー投資を拡大し、2016年3月末までの累計投資社数は国内外合わせて1,132社に達しました。そのうちの200社がIPOやM&Aなどの形でEXITを実現しており、EXIT比率17.7%と高いパフォーマンスを誇っています。この中で、SBIインベストメントが運用・管理に携わったベンチャーキャピタルファンドの投資社数は2016年3月末には累計688社を数え、そのうち138社がEXITを実現し、EXIT比率は20.1%となっています。

2016年3月期におけるSBIグループの投資実行額は279億円、投資実行社数は92社となりました。このうち、IT、バイオテクノロジー分野及びインターネットと本質的に親和性が高いと言われる金融分野の48社に対し、185億円の投資を実行しました。また、ITを活用した金融サービス及びその技術を有するFinTech分野の企業を投資対象とするFinTechファンドを組成し、当該分野への投資を積極的に行いました。

2016年3月末におけるプライベート・エクイティ等のグループ運用資産(現預金及び未払込額を除く)は1,833億円となりました。地域別の内訳では、日本の739億円に続いて、米国の439億円、韓国267億円、中国223億円などアジアを中心に海外への投資割合が約60%と高くなっています。これは他の国内ベンチャーキャピタルには見られない特長の一つであり、約20の海外現地パートナーと連携し、有望な海外投資先をいち早く発掘するグローバルな投資体制を築いていることが背景にあります。

グループ全体で投資先の価値向上を支援

SBIインベストメントでは、投資先企業の成長を効果的にサポートする体制も整えており、事業ステージに応じた戦略の立案・役員派遣・内部管理体制の構築などフルハンズオン形式による育成を行っています。

IPOにあたっては圧倒的な顧客基盤を有するSBI証券やSBIマネープラザ、海外進出にあたってはSBIグループの海外拠点や現地有力パートナーのネットワークなどを活用することで、グループをあげて投資先のバリューアップ実現に向けて積極的に関与し、株式公開まで一貫してサポートを行っています。

FinTech分野においては、SBIグループ企業と投資先FinTech企業との協業を目的としたFinTechコンソーシアムを開催するとともに、FinTechファンドの出資者である金融機関・事業会社等とのマッチングを積極的に実施し、投資先FinTech企業のバリューアップを積極的に実施しています。

こうした独自の体制により、SBIインベストメントはベンチャーキャピタルとして後発でありながら大きな存在感を発揮しています。なお、2016年3月期におけるSBIグループの投資先企業のIPO・M&A件数は、国内で5社、韓国・台湾市場で11社の計16社(全てIPO)となりました。2017年3月期のIPO・M&A件数は24社となる見通しです。

2016年3月期:投資先企業のIPO・M&A実績

社数	年月	投資先企業名	IPO/M&A	事業内容	本社所在地
国内：5社 海外：11社	2015年 4月	サンバイオ(株)	IPO(東証マザーズ)	再生細胞医薬品の研究・開発・製造・販売	日本
	2015年 4月	(株)シーアールイー	IPO(東証2部)	物流施設を中心とした事業用不動産の総合サービス(不動産賃貸、管理、仲介、開発、有効活用、建設、アセットマネジメント)	日本
	2015年 5月	Genofocus, Inc.	IPO(韓国KOSDAQ)	産業用酵素開発	韓国
	2015年 6月	Corestem, Inc.	IPO(韓国KOSDAQ)	幹細胞治療薬の研究・開発	韓国
	2015年 6月	BIOCORE Co., Inc.	IPO(韓国KONEX)	CRO(分析・生動・臨床)サービス、誘電体分析及び誘電体分析製品の開発	韓国
	2015年 6月	U-Tech Co., Ltd.	IPO(韓国KOSDAQ)	モバイル機器BLU用導光板及び mold frame	韓国
	2015年 7月	Natural FNP, Inc.	IPO(韓国KONEX)	加工食品卸売業	韓国
	2015年 7月	Plumblin Life Sciences, Inc.	IPO(韓国KONEX)	動物用医薬品製造業	韓国
	2015年 8月	Fine-tech Co., Ltd.	IPO(韓国KOSDAQ)	携帯用BLU、TSP、LCDモジュール	韓国
	2015年 9月	Boditechmed, Inc.	IPO(韓国KOSDAQ)	体外診断用システム	韓国
	2015年 9月	(株)プランジスタ	IPO(東証マザーズ)	電子雑誌事業及びEC事業者向けソリューション事業	日本
	2015年 11月	MG MED, Inc.	IPO(韓国KOSDAQ)	遺伝子チップを利用した分子診断サービス及び診断試薬製造	韓国
	2015年 12月	(株)ビジョン	IPO(東証マザーズ)	OA機器・通信機器の販売及び海外WiFiルーターレンタルサービス事業	日本
	2015年 12月	Egis Technology Inc.	IPO(台湾TPEX)	指紋認証セキュリティ製品の開発・製造	台湾
	2015年 12月	ソーシャルワイヤー(株)	IPO(東証マザーズ)	プレスリリース配信代行事業及びレンタルオフィス事業	日本
	2016年 2月	Qurient Co., Ltd.	IPO(韓国KOSDAQ)	医薬品研究開発	韓国

資産運用サービス事業

収益力のさらなる強化に向け 資産運用サービスを拡充

グループ全体の資産運用体制の強化に向けたグループ内再編の一環として、2015年11月にアセットマネジメント事業の中に資産運用サービス事業を新たに設け、その中間持株会社としてSBIグローバルアセットマネジメントを新設しました。

資産運用サービスの拡充に向け、2015年12月に世界最大級の債券運用会社である米国ピムコ社と合併でSBIボンド・インベストメント・マネジメントを設立しており、同社では2016年4月のSBI生命の投資一任運用を皮切りに営業を開始しました。さらに同年6月からは公募投資信託「SBI-PIMCOジャパン・ベターインカム・ファンド」(愛称:ベタイン)の募集を始め、運用を開始しています。ベタインは、ピムコ社が持つ高度な債券アクティブ運用能力と、SBIグループが培ったインターネット金融のノウハウの融合により開発した低リスク・低コストのアクティブ型債券ファンドで、信用力の高い日系企業が発行する外貨建て社債に為替リスクを抑えた形で投資するものとなります。

また、2016年5月にはグローバルなアセット・アロケーションに強みを持つスイスのSYZ Asset Management社との間で合併会社の設立について基本合意しました。この合併会社を通じ、SBIグループの各資産運用会社が最適なリスク分散を図った商品を開発するためのアドバイザー業務を提供するほか、SBI証券等の販売会社を通じ、国内の個人・機関投資家に向けて開発した商品を販売する計画です。

さらに、世界経済の不透明感が高まる中、信用リスクがない資産として金の需要が高まりつつあることを受け、金のリアルタイム取引を手掛ける米国Gold Bullion International社と、金を24時間リアルタイムで取引できるプラットフォームを国内の個人・機関投資家向けに提供する合併会社を設立することで覚書を締結しており、株や債券に限らず資産運用商品の拡充を進めています。

なお、2016年3月期に金融サービス事業からアセットマネジメント事業へセグメントを変更したモーニングスターは、営業利益・経常利益・当期利益で過去最高を更新するなど大幅な増収増益を達成しています。

SBI貯蓄銀行

新規与信の獲得は順調に伸び、 保有債権の「質」も向上

2013年3月に連結子会社化した韓国のSBI貯蓄銀行は、韓国において個人・自営業者・中小企業などを主な顧客とする貯蓄銀行事業を展開しています。2014年10月に三つの傘下銀行と合併し、現在、資産規模において韓国最大の貯蓄銀行となっています。

連結子会社化からしばらくは、それ以前の不良債権処理の影響を受けていたSBI貯蓄銀行ですが、事業再生の段階は完了し、収益力は着実に向上しています。SBI貯蓄銀行にお

ける正常債権はリテール分野を中心に着実に増加しているほか、リテールの与信獲得額は四半期ごとに10~20%以上の伸び率で増え、2016年1月より販売を開始したモバイル専用リテール向け信用貸出商品「サイダ」も新規与信の獲得に大きく貢献しました。

また同社の保有債権は「質」の面でも向上傾向にあり、延滞率の状況は2016年3月末において全体で16.2%、リテール債権では8.5%へと改善しており、2016年末には全体で10%未満を目指しています。なお、2016年12月期中には不良債権を一掃することで、2017年12月期に年間600~700億ウォンの当期利益の水準を達成することを目指しています。